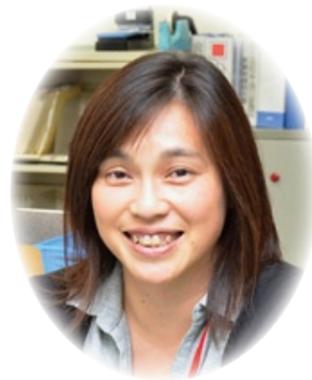


市民に信頼され、市民の役に立つ市役所に向かって

市職員のさまざまな取り組みが始まっています

▶保健センターの3歳児健診で保健師が子どもの発育状況を確認



霜山美穂（子ども支援課）

**専門性の向上と組織力アップを目指す**  
子育て支援や高齢者対策、健康づくりなど保健師の仕事が多様化

**市民と市職員が一緒に考える**



飯田美和（子ども支援課）

**総合文化会館北側に整備する「子育て交流拠点施設」について、公募の市民や子育て支援団体の皆さん**



▲子育て交流拠点施設の整備に向け市民と市職員が知恵を絞る



中山隆司（外務省派遣）

し、現在、26人の保健師が6つの職場に配置されています。それぞれの分野で仕事を進めると、自分の仕事以外のことがどうしても見えにくくなることから、保健師全員が集まり交流や学習など切磋琢磨する「保健師連絡会」を始めました。定期的に集まり、互いの業務を理解し合うことで個々のスキルアップはもちろんのこと、保健師の横のつながりも強くなり、同じ視点で仕事を進めていくことで組織力アップにもつながるのではないかと期待しています。

**地域の生の声を聞くことが大切**



児玉亘（下水道建設課）

**地域づくりサポート制度に応募のあった布敷地区の地域ビジョンづくりに参加しました。同制度とは、地域の人たちと市職員が一緒に地域づく**

と市職員が一緒になってワークショップを開催しています。舞鶴ではどのような子育て支援施設が望まれているのか、その施設の運営はどうあればいいのかなど、天候に左右されず子どもがのびのびと遊び、子どもから高齢者までの多世代が気軽に集まり広く子育てに参加することができるとなるよう、市民の皆さんとともに知恵を絞っています。きつと、素晴らしい施設になると思います。元気に走り回る子どもたちの歓声を一日も早く聞きたいです。

中国・大連市での経験を生かして

**外**務省に派遣され、大連市の日本領事館に勤務しています。業務内容は主に中国人の査証（ビザ）審査ですが、中国在住の日本人をさまざまなトラブルから守る仕事もしています。海外から日本や舞鶴を見ることができるとても貴重な機会を得ています。長年培われてきた友好都市・大連市との信頼関係は、これからの舞鶴の発展に大きな役割を果たすことは間違いありません。帰国後は、大連市での経験とここで得た人的ネットワークを最大限に活用し、舞鶴の発展に全力で貢献したいです。



森下直哉（管財契約課）

**若**手職員の有志で「まちづくり研究グループ」を立ち上げました。未来の舞鶴を支えるために幅広い視野を養いたい

くりを考えるものです。当初は、農業の担い手不足などの課題に「市職員としてできることはあるだろうか」と自問自答しましたが、「自分たちで自分たちの地域を守りたい」「子どもたちが残しておきたい布敷がある」という地元の思いが伝わる中で、地域と市役所が同じ目標に向かって進んでいるという実感を得ることができました。地域づくりをしたくても人手不足のところもあります。専門的な知識を必要としているところもあります。そういった地域に入り、何が起きているのか、生の声を聞くことが市職員として大事なことであったため感じました。



▲布敷地区の将来について住民と一緒に考える

豊富な知識で市民サービスを向上

**指**導検査課では、土木や建築、設備など公共事業に関わる技術職員を対象に「公共事業報告会」を開催しています。施工した工事の内容や手法について職員が順番に発表します。技術職員は公共事業を行う際、市民の皆さんに事業の必要性や工事の工程などを説明し理解を得る必要があります。この報告会は、その際の説明能力の向上にも一役かかっています。最近では、「技術力の伝承」や「最新の知識や技術の習得」が喫緊の課題となっています。技術職員一人ひとりが公共事業のプロフェッショナルであるという意識を持ち、豊富な知識に基づいて市民サービスのさらなる向上に努めていきたいと考えています。



岡克明（指導検査課）

市の財政状況やこれからの自治のあり方など、毎年テーマを決めて活動しています。地域で何が起きているのか、まち中に出かけて行うフィールドワーク、青年会議所や海上自衛隊舞鶴地方総監部、他の自治体職員などとの交流学習も行っています。「10〜20年後の舞鶴は私たち若手職員の行動によって左右される」との危機感から立ち上がった自主研究グループです。課題を見つけた議論を絶やさず幅広い視野を持ち、舞鶴の未来像を市民と共有できる職員でありたいです。これからも舞鶴を良くしたいという志を忘れず活動を続けていきます。

▶外部講師を招いてワークショップの進め方を学ぶ

